

単元名「植物を育てよう(4)花のさいたあと」 本時4/4 目標 「種のまき方の秘密」を調べ、植物の知恵に興味をもつことができる。

時間	学習活動 (ICT活用)	予想される児童の反応	ICT活用を中心とした視覚化の目的と留意点 ※評価	ICT活用
4	1 これまでの復習をする。 (1) <u>番組「花のさいたあと」の ハウセンカの部分を視聴する。</u>	○花が咲いたあと実ができるんだ。 ○ハウセンカは実がはじけて種が出てくるんだ。	○ 番組視聴の視点を明確化したい。ハウセンカの実がはじける前で映像をストップし、次にどうなるかを予想させる。	パソコン NHK番組 「花のさいたあと」
2	2 本日の活動 (1) 課題をつかむ。 <u>「たねさんころころ」を歌うこと で本日の課題をつかむ。</u> 【どうやって種をまくのかな?】	○実と種と区別するんだな。 ○ほかの種はそのあとどうなるのかな。(カエデ、クルミ)	○ 課題意識を生き生きとしたものにしたい。そのために「花のさいたあと」の歌詞を映像に写しみんなで歌いながら課題を確かめていくようにする。 「何?」と必要感や切実感を感じる場…教材とのかかわり 番組で見たハウセンカと比較することで、クルミやカエデはどうやって種をまくのか学習する必要感を高める。 日常生活の中で名前は知っているカエデやクルミも、花が咲くことや実ができることにまず気づかせたい。その上で、ハウセンカと大きさや形が違うこれらの種についても知りたくなるようにする。	大型テレビ
1 4	(2) 課題解決 ① カエデとクルミはどうやって種をまくの? ・花の写真を見る。 ・実物を観察する。 ・比べながら予想する。 ・自由に考えを出し合う。 ・話し合う。 ・自分の予想をもつ。	○木にも花がさいて実がなるんだ。 ○まき方にちがいがあのかな? ○大きさや形がちがうな。 ○はねのようなものがついてるな。飛ぶのかな? ○かたいな。落ちて埋まるのかな?	「そうか!」と納得できる自分の考えを導き出す場…他者とのかかわり 仮説を立て、話し合ったあとに映像を見るなど学習過程を工夫することで「そうか!」という納得感を高める。 『予想する→仲間と話し合う→自分の考えを修正する→自己決定する』など、他者との関わりを通して個の考えを深める場を設定する。こうして全員の課題意識が高まった上で映像を見せるようにする。	パソコン 大型テレビ
1 2	② カエデで試してみよう。 ・飛ぶか実物で試してみる。 ・作ってみる。	○飛んだ!飛んだ!すごい。 ○作りたいな。うまくできないな。 ○本当の種はよくできてるな!	「たしかに!」と考えを確かにし、自信をもつ場…自己とのかかわり 実物で実験したり、模して作ったりする主体的な体験活動の場と映像を見る場を組み合わせることにより「たしかに!」に導く。 カエデの種については実際に種を飛ばしてみる。(感動体験活動) さらに、発泡ポリスチレンで模型を作る活動を取り入れ、種をよく見て作る体験をさせる。飛ぶ種をうまく作ることができない体験についても「本当の種はよくできているな」と感じるよい機会だととらえる。 体験を通して実感できる活動から、体験できない活動に移る。そのことで映像の必要感を高め「たしかに!」と思えるようにする。	パソコン NHK番組クリップ 「オニグルミ」 「クルミの芽がでる様子」
6	③ クルミで試してみる。 ・自分の予想を試してみる。 ・「映像で確かめる」 ・種から芽がでる様子も見る。	○どうやって調べればいいのか。 ○映像を早く見たいな。 ○そうか!動物が埋めるんだ。 ○すごい。かたいのに芽が出てる。		大型テレビ
2	3 本時を振り返る。 (1) <u>「たねさん とおくまで」を 歌い本時を振り返る。</u>	○植物の知恵ってすごいな。	○ 学習日記(①分かったこと,②感想)で評価する。 ※「種のまき方にちがいがあ」ことが分かる。	パソコン 大型テレビ
5	(2) 学習日記を書く。 ・分かったこと ・感想 (3) 自己評価をする。	○自分でも種の秘密を発見したいな。	○自己評価(①自分の考えを話す, ②人の話を聞く, ③がんばっていた人) ※自分を振り返るとともに他者のがんばりに気づく。	

今後の活動について・・・ハウセンカの種採りをする。メッセージを添え今の二年生にその種を贈る。